

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170200535-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」との理念を念頭に、言葉遣いに気を付け、笑顔・尊敬する気持ちを忘れない様に務めている。本人本意の支援を心掛けている。それは、何を希望され、何に困ってみえるか、いまここでどのような気持ちでみえるのか等、声なき声を聴き、対応していくこと。介護業務という考えではなく、入居者様の出来ない部分のお手伝いをさせて頂くという気持ちで日々努めています。職員も一緒にソファに座って、会話をしている時間、歌を唄う時間など家庭的な雰囲気を大切にしています。個々の入居者様の施設前の生活を深くアセスメントし、その内容を含めコミュニケーションを行うなど少しでも安心して過ごして頂けるようにも努めています。個々の入居者様の在宅生活の延長上である事を念頭に置いてケアにあたっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が楽しく、生き生きと笑顔のある暮らしができるように取り組んでいる。起床や就寝時間、入浴日等も決まってはいるが、利用者のペースや思いを大切にして、一人ひとりに合わせた支援をしている。利用者のできる事や得意な事を見つけ、洗濯、掃除、食事や花の手入れ等、利用者の力を活かした役割として、楽しみや喜びに繋がるように支援している。管理者は、高齢化する職員の体調管理にも配慮し、休暇の取得や勤務時間も希望に合わせた働き方になっている。職員の提案や要望を取り入れ、やりがいや向上心を持って働ける職場環境にしている。職員同士も利用者も互いに助け合い、協力し合って、思いやりのある温かな雰囲気の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き生きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲げる事により目に入り意識づけられる。ミーティング時一同で読み上げるにより再確認している。家庭的な雰囲気であるゆったりと過ごせる時間を提供できている。	利用者が明るく家庭的な雰囲気のなかで、笑顔のある日々を過ごせるように取り組んでいる。毎月の会議で理念を読み上げ、実践の確認をしている。おりに触れ社長から、理念に基づいたケアができていのかの問いかけがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス流行の為、密なかかわりが無いものの、交流センターに来られる住民と挨拶を交わしている。当施設のルールとして外出の許可が出た為、少しずつ地域の活動に参加していきたい。	地域の人に野菜や花の苗を頂いている。地域行事のふれあい文化祭に利用者の作品を出展予定し、作品づくりをしたが都合で参加できなかった。先月から再開した、ふれあいサロンに参加予定がある。敷地内を散歩時に、隣接する交流センターに来る人と挨拶しているが、日常的な交流ができていない。	コロナ禍での制限や中断はあるが、日曜日以外は開所している交流センターを活用した交流や地域行事に参加する等で、地域とのつながりや交流を、更に深めて頂きたい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス流行の為、紙面での開催を行っている。文章にて意見を頂いて反映させているが、9月の運営推進会議より対面になり地域での活動を教えて下さり、入居者様の体調を配慮しながら参加を考えている。	9月から対面での会議を開催している。書面会議時は、事業所の状況報告と意見をもらうため用紙を送り、回答後、議事録としてまとめ送付している。メンバーの意見から地域行事の情報を得たり、土砂災害時の避難体制や停電時の備えを再確認している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を利用し、お顔を拝見しながら、困りごとを相談させて頂けた。今後も継続していきたい。	市担当者とは、メールや電話で連絡を取り合ったり、情報をもらったりしている。事故報告はFAXで行い、書類提出時等に事業所の現状を伝え、相談しやすい関係を築いている。市主催のウェブ会議や研修に参加し、最新情報を得たり、事例の相談等をしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、看護師、介護福祉士等で、身体拘束等廃止委員会を3ヶ月に1回行ない身体拘束しないケアに取り組んでいる。その後職員の勉強会を行っている。玄関の施錠は日中は行っていない。	身体拘束廃止基本指針を定め、身体拘束等適正化対策検討委員会を定期的に開催し、研修を実施している。常に、利用者に納得してもらえるように話しかけ、気長に待つ姿勢を大切に接し、拘束しないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回身体拘束、虐待防止委員会を実施。職員間で話し合いを行い状況把握と対応を行っている。	虐待行為について事例をあげて勉強会を行っている。グレーゾーンとなる行為について話し合い、共通の認識をもって虐待防止に努めている。管理者は、不適切な言葉や対応に気づいた時は、利用者や他の職員がいない場所で注意し、危険な時はその場で注意をしている。	

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を受ける事で、成年後見制度を学ぶことができたが、活用できておらず、機会がまだない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族と話し合い、契約時に管理者が契約に関し丁寧に説明し家族の方に理解して頂いている。また、分からない事があれば、契約時に限らず都度電話にて対応している。特に転倒事故については十分に説明し了解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、運営推進会議開催予定月に意見を記入して頂ける用紙を郵送して、ご家族様の要望を職員間で共有出来る様回覧している。	面会等の来所時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている。家族に写真入り便りを送付時に、担当者が近況を記載して意見を聞く場合もある。家族の意見や要望は職員で共有し、日常生活で利用者のできることを一緒に行っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングで職員同士の意見交換をし、上司の意見も聞いて話し合い、サービスに反映させている。	管理者は、日常の業務中や会議で職員の要望や提案を聞いている。毎日使う必需品や消耗品、レクリエーションに使う物品等の購入は速やかに対応し、高額な備品等は社長にお願いしている。職員の意見から電子レンジの買い換え、肌荒れに適したボディソープの変更、ケアに対する提案等を取り入れた。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は 現場に顔を出されて、働きやすい職場環境に務めている。提案したケアを行うことにより改善がみられると仕事にやりがいを感じる。	職員の家庭事情、年齢や健康状態に配慮し、希望に沿う勤務にしている。連休の取得、日勤帯のみや時短勤務等の希望に合わせて、働きやすい職場にしている。職員同士が思いやりや助け合いの気持ちで、良好な人間関係で楽しく働ける職場づくりに心掛けている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の向上を図るべく研修を受講出来るように配慮している。就業時間内に研修が行えることが良い。	事業所内研修は随時実施しているが、外部研修案内は掲示して、パート職員も含め誰でも参加できるようにしている。職員の資格取得に向けた研修や経験や力量に合わせた研修は、事業所から参加を促している。研修は事業所が経費を負担し、ウェブ研修も事業所からの参加で勤務扱いにしている。	

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	どのような研修であっても、人員の許す限り参加させて頂ける。他施設職員との交流の場になっている。他の職員も参加できる様取り組みたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする中で入居者様は人生の先輩である事を意識して、馴れ馴れしい関係ではなく、家族の一員として接するように心がけている。洗濯物を依頼したり、それぞれの入居者様に出来る事を見極め、依頼している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや希望を聞きとり、出来ることから始めている。困難な方でも声掛けし、表情を伺いながら検討している。	思いや希望を言える人は多いが、寛いでいる時に聞いたり、入浴時や居室で個別に聞いたりしている。答えやすいように飲み物等の選択肢を用意する場合もある。朝ゆっくりな人、夜遅くまでTVを見ている人等、利用者のペースを大切に支援している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のミーティング時、入居者様個々の現状を把握し、支援方法を職員全員で考え、ケアに対しての見直しも実施出来ている。	本人や家族の要望を聞き、担当者が作成する評価表を基に、モニタリング総括表と課題整理総括をまとめて、医師の意見も取り入れ介護計画を作成している。毎月の会議で担当者が現状を報告し、話し合い、必要時及び状態変化時は見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と変化があれば、必ず個人介護記録に記録している。介護記録や連絡ノートなどを活用し情報の共有をしている。ケアプラン、モニタリング時、見直しに活かしている。	利用者の日々の様子や気づきと実施したケアを個別の介護記録に記載している。状態変化や重要な事は、申し送りノートや業務日誌にも記録し、全職員で情報を共有している。介護記録をモニタリングや介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティング時にケアの方法について話し合いを行い、本人、家族の状況に応じて柔軟な対応に努めている。	医療機関の付き添いは家族が基本であるが、家族の都合で行けない時は、要望があれば職員が同行している。買い物に付き添う事もある。墓参りや帰宅等利用者が希望する時は、家族と連絡を取り合って支援している。	

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	相談員に来所して頂いている。訪問理美容、往診の利用を支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、かかりつけ医の診察を希望され継続される方と、訪問診療している協力医に変更する方もある。認知症状が重い方には、専門医の訪問診療をお願いしている。	入居時に家族の意向で協力医に変更する人もいるが、かかりつけ医を家族の付き添いで継続している人もいる、家族と医師宛に書面で日頃の状態を伝え、医師からFAXで報告を受けている。協力医は24時間電話で指示が得られる関係である。希望で歯科の訪問診療を受けられるようにしている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は早急にサマリーをFAXし、医療機関の相談員と密に連絡を取り情報交換し、カンファレンスなどにも積極的に参加して退院後につなげている。	利用者が入院時は、日頃の様子や状態を書面で伝え、相談員と電話で連絡を取り合っている。家族からも情報を得ている。退院前は、カンファレンスに参加し、食事形態やケアの方法等について話し合い、事業所での生活がスムーズに移行できるようにしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明では看取りは行っていないと伝えているが、重度化してきた際にはどのように対応していくか、家族の希望もどこまで取り入れるか、訪問診療の主治医との連携も強化している。	入居時に事業所の方針を説明している。食事や入浴が困難になると、医師と相談し家族に看護師が説明している。医療機関や介護施設の情報提供しながら、家族の希望に沿うよう支援している。退去となるまで、事業所のできる限りの支援をしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車要請の手順はマニュアルがある。怪我の場合は、管理者と連携し緊急時の連絡方法も徹底し連絡しやすくしてある。いざとなった時、決まった職員しか対応できていないため、随時研修を行う必要がある。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。近隣の方には交流センターにみえたとき口頭及び掲示にて火災時等の協力依頼をしている。災害の発生時に備えて飲料水・食品類を少し準備をしている。	夜間想定を含む避難訓練を、利用者と一緒に実施している。夜間訓練は19時から行い、夜間に避難する事の難しさを体験している。交流センターに来る住民に、災害時や訓練時に見守りを依頼したい旨を口頭や掲示してお願いし、協力体制づくりに努めている。	

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などは耳元で声かけしたり、少し散歩でもと言って他の人に聞こえないようにしている。うまく対応できない時は、職員が交代して対応している。	利用者を尊重した言葉や対応に心掛け、入室時は必ずノックし、排泄介助は扉を閉めてカーテンの外で見守りをしている。利用者のできることをたたえ、できなくても、またやってみようと思えるような言葉掛けに努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、自己決定しやすいように声かけに配慮している。入居者様の希望に添えるよう強制しないような支援をしている。例えばどのおやつが良いか等。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の施設の流れはあるが、入居者様自身が拒否される時は無理強いする事なく時間を置いて声掛けを実施するなどの対応を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成するとき、季節物を入れ入居者様の要望も取り入れたり、もやしの掃除など、出来る事は取り組んで頂き、テーブル拭きなども依頼している。	季節の食材を使用し、利用者の食べたい物、ちらし寿司や鰻等を取り入れている。野菜の下処理、食卓やお盆拭き、片づけ等を一緒に行っている。献立の読み上げや食事前の挨拶を、利用者が順番に行っている。行事食、テイクアウトの利用、弁当風に盛り付け、手作りおやつ等で楽しみな食事にしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的(起床時、10時、11時、14時、15時、17時)な水分補給。またご飯の量・おかずの量・硬さ・大きさの調整、日々工夫をしている。食事を提供しても摂取されない方は、主治医と相談し、栄養補助食品を提供し体重は安定している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア介助、1日1回の義歯消毒を行い清潔保持に気を付けている。口腔ケアは自身で出来る方は見守り、出来ない方は介助にて行う。	歯科衛生士から毎月指導を受け、歯ブラシの強さ、舌ブラシ使用や口腔清拭の人も、日に3回口腔ケアの確認や見守りをしている。夕食後に義歯洗浄と消毒をしている。毎食前にパタカラ体操や歌を歌ってもらい、口腔ケアの大切さを理解し取り組んでいる。	

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考にパターンを把握し失禁等がないように早めにトイレ誘導をしている。出来るだけトイレでの排泄に力を入れている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には、入浴日を決めているが、ご本人様が強く拒否される場合は、無理強いせず別日にて提供。入浴中はゆっくりしてもらい本人ペースで出来る事をして頂くようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でテレビをご覧になり過ごされる方もあれば、リビングにて録画番組をご覧になれる方、ご本人様の希望にて居室で休んで頂く時間もある。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にて確認している。変更があった場合連絡帳で伝えている。誤薬や飲み忘れがないよう服薬時には職員間で名前・日付の確認をしている。	職員は薬剤情報で利用者の薬の内容を理解している。服薬時、二人の職員で名前、日にち、朝昼夕を確認し誤薬を防いでいる。服薬後は、空袋を日付毎に1週間保管し、飲み忘れ等があった時に確認できるようにしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ・片づけ・お盆ふき・台拭きなど、くらしの中で出来る事を行っている。楽しみごとの支援としては、レクリエーションを通して楽しんで頂いている。	日常生活のなかで利用者のできることを、役割としてやってもらっている。洗濯物干しやたたみ、食事の準備や片づけ、献立の読み上げ、食事前の挨拶、花の水やりや水換え、ベランダの掃き掃除等をしてもらっている。共同作品や個人作品作りも楽しんで取り組んでいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4月は桜、5月は鯉のぼり、10月は紅葉と入居者様全員で、外出出来る機会が増えて来ました。今後はもっと野外へと考えている。	日常的には敷地内を散歩している。四季の花、鯉のぼりや紅葉狩り等へ、ドライブに出掛けている。家族の協力で墓参りや外泊する利用者もいる。ベランダに出て、洗濯物干し、落ち葉掃除やお茶を飲み、外気に触れて気分転換できる機会を作っている。	

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、家族様にお願いしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望される方は、事務所で出来るようにしている。年賀状を出したり家族からの手紙をみて楽しまれていたりする。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を飾ったり、入居者様に作成して頂いた季節感のあるカレンダー作りを心がけ、季節によってひな人形・五月人形・クリスマスツリーも飾ります。	各テーブルに一輪差しの花を生け、利用者と一緒に作った季節の作品を飾っている。常時の換気、手摺りやテーブルの消毒を日に3回、職員は週2回抗原検査を実施し、感染症予防にも注意している。夏期はゴーヤのカーテンや藤棚で日差しの軽減を図っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席は決まった席になっているが、ソファ席は好きな場所に座れるようになっており、好きな時に居室で過ごされている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたものがあれば充分ですと説明しているが、タンス等は購入される方が多いが、小物は自身で選ばれたり、家族様が選んだものが置いてある。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の「出来る事」「わかること」の見極めに努め「出来る事」を提供することで自立支援に努めている。動線の確認、手すりの活用。		